

第1回 青森市総合計画審議会 第3分科会 議事要旨

【日 時】 令和5年10月30日（月） 9：50～11：50

【場 所】 ホテル青森 4階 椿の間

【出席者】 佐々木 淳一 分科会会長、小山内 敬子 委員、佐々木 重光 委員、  
佐藤 一成 委員、立木 祥一郎 委員、本田 明弘 委員 計6人

【欠席者】 なし

【オブザーバー・傍聴者等】 なし

【関係部局】 佐藤市民部長、佐々木環境部長、加福保健部次長、清水都市整備部長、  
石村浪岡振興部次長、武井教育委員会事務局教育次長、三浦企業局水道部長、  
佐々木企業局交通部長、長内青森地域広域事務組合事務局長 計9人

【事務局】 白戸企画部次長、杉田企画調整課主幹、工藤企画調整課主事 計3人

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 各種統計データ
- ・ 青森市総合計画前期基本計画 フォローアップ表
- ・ SDGsの概要
- ・ 青森市財政プラン（2019～2023）
- ・ 日程調整表

【会議概要】

○当面のスケジュールと今後の流れ、本分科会の役割を確認した後、配付資料について事務局から説明。各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

「文化」分野

（委員）

・三内丸山遺跡は県外の人でも分かっているが、小牧野遺跡については現地までの案内が足りない。宝の持ち腐れとならないよう更なる取り組みが必要ではないか。

（委員）

・いろいろな土地を渡り歩いてきたが、青森市は文化財のPRが上手じゃない気がする。もう少しPRの仕方を考えたらどうか。

（委員）

・文化財の保護・活用の枠ではなく、まちづくりをデザインする大きな枠で文化や芸術で地域を振興するというコンセプトで考えるべき。

・観光や産業とデザインを複合したものが青森にはない。

・文化で総合的にいろんなアーティストを育成していくとかのベンチマークが全然欠けている気がする。まずはそこから全部見直さないといけない。

・文化・芸術に関して極めて豊富で、芸術家、文化人がたくさん出てきている土地であり、

それをどうやって推進していくのか、他自治体と比べて特質してブランディングさせていくためにどうやって都市デザインに絡めていくかが一番の鬼門。

- ・人材も育成し、それを実際に雇用とかビジネスにつなげていく、いわゆるコンテンツビジネスみたいなことも含めたものにどう発展させていくか。それが、このまちの新しい特産になるんじゃないかと前から思っていた。

#### 「市民協働」分野

(委員)

- ・市の考える課題に「福祉館等の利用環境向上により地域の個性を生かしたまちづくり」とあるが、福祉館の設備そのものがあまりよくないため、活動がかなり制限される。ある程度整備していかないと福祉館の活用は難しい。

(委員)

- ・福祉館に関しては、順次建替えも進んでおり、少しずつ活動の場の整備はされていると感じている。
- ・若い世代の活動の場所、若い世代が生き生きと活動できる場所をどういうふうに確保するかという全体的な課題がある。
- ・駅周辺、新町とか空いているところを市で借りて、そこを活動の場として提供するようなことをしたほうがいい。

(委員)

- ・一番大事なのはコンテンツ。ハコもとても必要ではあるが、若い世代が行ってみたいと思うコンテンツが作れているかどうか、その発信ができているかどうかのチェックをしてみたらどうか。
- ・学生は SNS やインフルエンサーの発信で集まるので、そういう仕組みを使ったらどうか。

(委員)

- ・若い世代が将来、世に出ていけるような活動場所の提供やいろんな世代の人も巻き込んだプロジェクトが実施できるような仕組みづくりが必要。
- ・単なる貸館では、借りている人同士のコミュニティは生まれない。借りている人同士の顔が見える関係をどうやって作っていくかということがとても重要。
- ・新しい施設を作るだけでなく、既存の施設を少しずつ改修して行って、そこからいろんな活動が生まれていくような仕組みを計画したらどうか。

(委員)

- ・地域の個性を生かしたまちづくりはファシリティマネジメントの推進ともリンクすると思うが、これの説明はあるか。

(事務局)

- ・ファシリティマネジメントに関しては、総務部で個別計画のようなものを作り、福祉館と消防の屯所の合築や、小学校の改築に合わせて放課後児童会の教室も一緒に整備する等を進めている。

(委員)

- ・市には外国人でインフルエンサーになりかかっている人たちを雇用する仕組みはあるか。

(事務局)

- ・今のところ、外国人でインフルエンサーになりたい方の雇用というのは、制度としては青森市にはない。

(委員)

- ・彼らの行動パターンを見ていると、必ずしもパーマネントの職を求めてなくて、ある時期に青森市にそういう職があれば入ってくる。そういう仕組みがあるとだいぶ違うのでは。

### 「まちづくり」分野

(委員)

- ・操車場跡地周辺整備推進事業について、アリーナの工事も進んでいるが、あの周辺を拠点とするのであれば交通インフラの整備が必要だと思っており、そういう意味では駅が必要だと思う。中央大橋は歩行者にはまだ優しくないため、電車で移動できるとか高齢者でも移動できるような歩行者に対する対策が必要。

(委員)

- ・旧国鉄の線路のグリーンベルトが保存されている。青森駅の脇もずっと余地が残っていて、グリーンベルトで松原に接続していて、平和公園から合浦のところまで文芸のこみちみたいになっている。それを繋げて青森駅から合浦まで人が行き来できるルートを作り、交通機関が接続するような「コンパクトアンドネットワーク」をやることで、松原も今、棟方志功を含めた文教地区として再整備するというのが市長の大きな政策のテーマでもあり、青森市の居住人口がすごく多いところを活性化できるし、観光資源としても活用できるだろう。

(委員)

- ・松原になんでこんな道があるのかと思っていた。冬場の移動を考えると、その下にヒーターを入れて、自転車と歩行者が通れるようにするのがいいのでは。青森市に豊富にある自然エネルギーで電気も賄うという形でやると。日本には多分そういうところはないので、ぜひ実現してほしい。

(委員)

- ・道路整備というのはフォローアップ表でも評価も高く、この通り推進していけばいい。
- ・除雪では、玄関の前に雪を積んでいくことは勘弁してほしい。札幌では社会実験で寄せ雪を除去するサービスをしており、青森市でも社会実験をやってほしい。全てをやるのは大変かもしれないが、それをやって快適性を主張し、他の都市よりも青森に住んでいるほうが面白いと言えれば。
- ・仕事はリモートでいろんな所でいろんな形でできる。そういう仕事の改革と居住性と都市のデザインとか、全部リンクした話であり、この分科会でうまくコミュニケーションを密に取りながら連動して政策を作っていくのがいい。

「防災・雪対策（都市基盤整備・除排雪）」分野

（委員）

- ・防災について、町会の自主防災組織結成率が低い。空白地区の町会の方も関心はあるがどうしたらいいかわからないので、市からの積極的な働きかけをしてほしい。
- ・空き家対策について、調査はしているが、調査後の追跡はどういう流れになっているのかわからない。他市を参考にしながら、調査後のフォローアップとして、どのような取組をするのか、突き詰めて対策してほしい。

（委員）

- ・市民の方々が災害について熟知していないものもあり、特に家にいるお母さん、お子さんに、災害に関する知識を覚えてほしいので、市民に指導する場を設けてほしい。
- ・自主防災組織のある地区は、防災士会の支部と一緒に、地区の学校の防災訓練に参加したり、子どもたちにいろいろなお話をしたり、実際に体験させていただいたりすることもあるが、未組織地区に対しては防災士会で活動がないため、市において市民に対する防災知識の周知徹底に取り組んでほしい。
- ・除雪ボランティアについて、体の不自由な人は、雪があると災害が起きたときに逃げるのが困難なので、自主防災組織や防災士会の方で、地域における弱者の方々の避難方法とか考慮しているものの、組織的にきちんとした形で把握し、町会が中心となって助けに行く等の仕組みを作してほしい。

（委員）

- ・江戸川区は、建設業協会と建築士会と事務所協会の資格者がそれぞれ避難所の小中学校109の担当を決め、震度5強以上の地震があった時には、連絡を待たずにそこに行くことを決めており、毎年の訓練により、その地域の方とその地域の専門家の顔合わせができる。子どもは学校で災害に関する勉強をしているが大人はできてないので、普段から訓練を行う必要がある。

（委員）

- ・川が増水した時や決壊した時、あるいは地震、火災等、どこにどう逃げていいかわからない。どういうケースでどこに逃げるかということを知りたいので、講習会等を実施し情報共有を進めてほしい。
- ・家の前に除雪の雪を積まれたら、火事になった際に逃げられないので、防災的な意味合いでも、車目線ではなく、歩行者や障がいのあるかた等の人目線での除雪サービスに本気で取り組んでほしい。

（委員）

- ・空き家対策として他所からの移住者へ活用する等、空き家の増加をメリットとして考えられないか検討してほしい。

（委員）

- ・県外から移住したいという人はかなり多いが、空き家の活用や人目線での除雪サービスがきちんと対応できるのであれば、具体的に発信していくべき。
- ・市に依頼して、町会の地区ごとに、一般の市民を対象に勉強会を積極的にやっているが、

まだまだ避難場所が分からない人が多い。もう少し積極性に取り組んでほしい。

(委員)

- ・例えば学生を除雪ボランティアとして取り入れて進めたら、多分だいぶ違うのではないかな。

(委員)

- ・学生の除雪ボランティアは地域によってあまり進んでいないところもある。

(委員)

- ・除雪ボランティアは、青森市社会福祉協議会でボランティア制度があり、活動するとポイントが付与され、ポイントに応じて何かに交換できるものがあるので、それももっとPRすべき。

(委員)

- ・互いに助け合うような近隣との付き合いは大切。地域での絆みたいなことは考えたいけど、面倒くさいと思っている人もいるので、近所付き合いを透明化し、付き合いやすいような仕組みがあればいい。
- ・防災の視点からも、近隣の人たちがどういう人たちなのかを把握しているだけで全然違うと思う。

#### 「環境」分野

(委員)

- ・青森が誇れる資源として水産資源と森林資源の2つあると思っている。資源はある程度利用していく必要があるが、森林資源はまだまだ利用されておらず、蓄積されているものが多い。せっかく森林の豊富な青森なので、もう少し木材を利用することによって、山の環境を守っていけばいいのでは。

(委員)

- ・業者が夜中に軽トラックで来て事業系ごみを町内のごみ置き場に捨てている事例があるので、監視パトロールを強化する等、不法投棄に力を注いでもらいたい。
- ・ホタテの残渣について、漁港近くに行くとすごい悪臭がするので、手間もかかるが、指導をしてもらいたい。

(委員)

- ・自然環境の保全について、八甲田でいろいろな問題が起きたが、自治体が主導権を持ってゾーニングのような仕組みを作ればどうか。
- ・再生可能エネルギーについて、青森市の風の資源はもの凄いのので、上手に活かせる仕組みを作れたらいい。

(委員)

- ・陸奥湾や森は非常に青森を特徴づけている景観ですばらしい。森の資源を有効活用する等でSDGsを推進している土地だともっと打ち出すべき。
- ・市がブランディングも含む陸奥湾や森等の自然環境の保護をより推進することで、市民活動が活性化するような仕組み作りが必要。

- ・斎場は人の心と非常に強く結びついている場所であり、施設整備に当たっては、人の心に寄り添うような意匠・ランドスケープ等に考慮してほしい。
- ・今後の市の施設整備に当たっては、その機能だけに留まらず、何かを付加しながらクオリティを高めるような考え方のもと、まちをデザインすることについて議論を進めるべき。  
(委員)
- ・斎場に関して、事務局で何かあるか。  
(関係部局)
- ・斎場については、基本的な考え方やプランニング、内容等を踏まえた審査となった。今後、施設のあり方とか考える上で、単に機能だけを重視するだけではなく、ご遺族の心情にどこまで寄り添えるかという、施設に付加するものにも意を用いていきたい。

○次回開催の分科会の日程等に関する事務連絡を行い解散。